

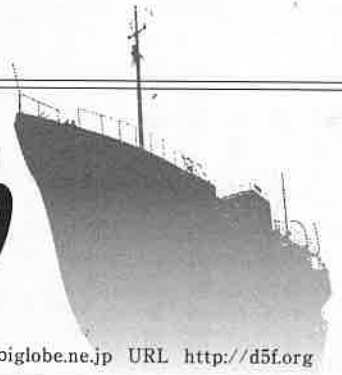
2010.09.01
No.359

(9・10月合併号)

福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



世界遺産に登録されたビキニ環礁(写真左上・撮影 豊崎博光)、夏の小学生工
作教室(右上)、恒例となった第五福竜丸エンジンへの薬頒布、若いボランティア
アが活躍(右下)、東京工業大学アジアの留学生の見学(左下)



核兵器のない世界へー ビキニ環礁が世界遺産登録

第二次世界大戦後の核兵器開発の実験場として、核実験がおこなわれたマーシャル諸島のビキニ環礁(同環礁とエニウエトク環礁で六七回の実験)が、このほど世界遺産(文化遺産)に登録されました。ユネスコ(国連教育文化機関)の発表は、八月二日に新聞報道され、第五福竜丸展示館への新聞・テレビ取材もありました。ビキニ環礁の登録理由として「核実験の威力を伝える上で非常に意義深い証拠が保存されている」「環礁の経験を繰り返すことはできない。将来の世代の記憶にとどめなければならぬ」と報じられています。

来館者から世界遺産の話題もだされ、マーシャルの核被害コーナーに立ち止まる姿も見られました(解説2面)。

焼津平和賞の授賞式

おこなわれる

第五福竜丸平和協会が授

与された焼津平和賞の授賞式が六月三〇日に焼津市文化センター大ホールにておこなわれ、協会から川崎昭一郎代表理事、山本義彦理事(静岡大学名誉教授)、安田和也事務局長が参列しました。

式は、同市が一九八五年から開いてきた「第五福竜丸事件六・三〇市民集会」のなかでおこなわれました。同集会は、第五福竜丸事件を後世に語り継ぎ、平和の大切さを訴えるために毎年開かれ、今年度は、黒石小学校、和田中学校生徒による合唱と平和をテーマにした作文の発表、市民による合唱が披露されました。

授賞式は、佐藤博明選考委員長の選出の経緯の報告をはじめ各委員からの講評があり、清水泰焼津市長より賞状、記念の盾、賞金が授与されました。これに対し川崎昭一郎代表理事がお礼の言葉を述べました。(2面関連)。

焼津平和賞授賞式より

第五福竜丸を通じて平和を願う 人々全てに贈られた栄誉

選考の経緯／佐藤博明 委員長長の報告

焼津賞のとりくみは、二月始めに推薦要綱や選考基準を決め、推薦依頼を内外の平和市長会議、平和関連博物館・団体におこない、個人に対しては市のホームページにてよ

びかけました。四月半ばまでに重複分を除き個人一二件、団体一四件の推薦を受け、推薦書と関係資料を作成し委員相互に情報交換し、五月二〇日に評定結果を集約しました。三十一日の委員会にて全員一致で第五福竜丸展示館とこれを管理運営する第五福竜丸

お礼を述べる川崎代表理事



平和協会への受賞が決まりました。

受賞理由として、第五福竜丸の保存、資料収集と展示と多彩な活動による第五福竜丸事件の後世への継承、核廃絶のとりくみへの寄与によるものです。

協会の 川崎代表理事の挨拶

第五福竜丸の母港焼津市の大勢の人々の前で受賞できることは誠に光栄です。

今回の受賞は、第五福竜丸の保存の実現、展示館の建設、開館後の展示館活動など

ご協力いただいた全員にいただいたものです。入館者は開館以来三千年、四七〇万人を超えましたが、船体と施設の経年劣化にも対応し、被災事件に絶えず思いをいたし、原水爆禁止運動の原点に立ち返りながら、焼津市の方がたとの連繋をすすめるよう、役員、職員、ボランティアガイド全員が力を合わせて進む決意です。

解説・世界遺産ビキニ環礁とは

豊崎博光

世界遺産に選ばれたマーシャル諸島のビキニ環礁では、西隣にあるエニウエトク環礁

核実験を始めるが、ビキニ環礁は核兵器開発競争の出発点といえる。

と共に一九四六年から五八年までアメリカにより六七回の原水爆実験が行われた。

二三四回の実験のうち水爆実験は一回。このうちの五回は一九五四年三月から五月までに行なわれ、第五福竜丸をはじめ多くの日本の漁船が被害を受けた。第五福竜丸の被災事件をきっかけに原水爆禁止運動が始まった。ビキニは、

後、ソ連（現ロシア）、イギリス、フランス、中国などが

今日まで続く運動の出発点で

もある。

一方、ビキニの人びとは四六年三月、「人類の福祉と、世界の戦争を終わらせるため」という美名の下に故郷から退去させられ、核実験期間中はマーシャル諸島の他の島々を移動させられた。一九六八年、米大統領が「ビキニ安全宣言」を発表したことから一部の住民が帰郷したが、やがて島に残る放射能に汚染させられ再び退去させられ、以後、立入り禁止となった。

核実験が終わってから四二

特別展 ビキニ環礁世界遺産 展のごあんない

核実験場となったマーシャル諸島のビキニ環礁が世界遺産に登録されました。

なぜ核実験場とされなければならなかったのか、核開発の歴史、ビキニの人びとの苦悩と表情、いまビキニ環礁は…？世界遺産登録をうけての緊急企画です。一〇月一〇日より開催予定。



フランスから見た福竜丸

美帆シボ

「広島に行きます」と言う
と、「お里帰りですか」と聞
かれる。また、フランスのジ
ヤーナリスト達にも、「広島
が長崎の出身ですか」と尋ね
られる。私が異国で原爆被害
を伝えているのは、それ相応
の理由があるのだろう、と思
うらしい。

「日本には広島・長崎に続
いて第三の核兵器の被害を受
けた人々がいます。ご存知で
すか」と福竜丸事件を語ると、
多くの人は知らない。日本の
若者さえも。私は福竜丸の船



五月のニューヨーク行動に参加

員の故郷、焼津市の近くに生
まれた。ピキニの核実験でマ
ーシャル諸島周辺が放射能で
汚染されたとき、まだ四歳だ
った。当時の記憶は定かでは
ないが、息子が多かった祖父
は家族ぐるみで様々な職種に
関わり、水産業にも関係して
いた。

核実験の汚染が心配されて、
魚が食べられなくなったら、
私達家族にとつて大きな影響
があったはずだ。戦争がなく
ても、核兵器を生み出し、よ
り最新の兵器に作り上げる段
階で、すでに人間の命を脅か
す。その恐ろしさはきつと幼
少に実感したものだと思う。

だからと言って、何をした
ら良いのか、私にはわからな
かった。私が父の書斎にあつ
た大東亜戦争の記録本を手
にして、原爆被害者の写真を見
たのはこの頃かも知れない。
近くに住んでいた従妹の話で
は、私が小学校で原爆の詩を
習ったり、原爆映画を観たり
すると、従妹たちを集めて、

その内容を教えていたそう
だ。

けれども、成長するにつれ
て、原爆の悪夢に悩まされ、
とうとう私は核兵器の存在を
無視するようになった。

*

その後、核保有国フランス
に住み、原爆ごっこをする男
の子を見たとき、大きなショ
ックを受けた。核兵器で国を
守ろうとする考え方が浸透し
ている国で、原爆の被害を伝
えることは容易ではない。し
かも、当時は大きな平和団体
もフランスの核実験にはノー
コメントだった。アルジェ
リアやタヒチの核実験被害に
つての確かな情報も手に入
らなかつた。国際平和年の

一九八六年に向けて、二冊目
の本をフランスで出版する計
画を立てたとき、私は広島と
長崎だけでなく、福竜丸とマ
ーシャル諸島の被害について
も情報を盛り込めば、フラン
スの核実験被害にも読者の目
を向ける契機になるのではな
いかと思った。

この本の編集を始め被爆
四十年に、フランス人の平和
ツアーを企画し、第五福竜丸

展示館の訪問を取り入れた。
その翌年から、フランスの核
実験反対署名運動を開始した
のだった。けれども、「核実験

被害者の会」が結成され、仏
政府への補償を求める運動が
芽生えたのは二〇〇〇年にな
つてからだ。核実験による放
射能の被害が長い時間をかけ
て現れ、実験に携わった人々
が若くして複数の癌を併発し、
不妊の率や彼らの子ども幼
少の死亡率が高いことが注目
すべき数値となつて示された
ので、ようやく政府も反応し
てきたが、被害者が納得でき
る補償には遠く及ばない。

*

今年のNPT条約再検討会
議では、なんとか最終文書が
採択され、「核兵器禁止条約」
という言葉が明記された。そ
れは大きな成果だけれども、
大量虐殺の兵器として禁止す
るためにどのように条約を制
定するかというところまでは
触れていない。万一のときの
ために国を守る兵器だ、と
核抑止論を肯定すればするほ
ど、核兵器を持ちたくなくなる
国が増えてもおかしくない。世
界各地で行われた核実験の被

害者や環境汚染の問題がもつ
ともつと世界に伝わっていた
ら、核兵器を持つことが国の
安全保障につながるわけでは
なく、むしろ地球の全生命を
脅かすことになる気がつく
だろう。

そのためにも、福竜丸の存
在は大きな役割を果たしてい
る。福竜丸を通して、世界の
核問題が見えてくるからだ。
この船を残して、次の世代に
史実を伝えようとした人々の
思いが時空を越えて広がりに
つある。第一回焼津平和賞は
その思いへの感謝と、福竜丸
存続の願いを表したものだ
と私は思っている。

美帆シボさんのプロフィール

フランスにてヒロシマ・ナ
ガサキ研究所を創設し被爆の
実情や核問題を伝える活動に
とりくむ。現在、フランス平
和自治体顧問、相模女子大学
客員教授。主な著作『核実験
とフランス人』（岩波書店）、
『フランスの空に平和のつる
が舞うとき』（柏書房）ほか。
ピースアニメ「つるののつて」
原作者。2010年焼津平和
賞選考委員。

連載④

晴れた日に 雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

沈めてよいか福竜丸

一九六八年三月、ビキニデー中央集会演壇近くで、日本原水協代表理事畑中政春さんに、「赤旗」の白井千尋記者が問いかけていました。白井記者が聞きだしたいのは、第五福竜丸保存運動に「日本原水協が取り組む」ことの「確認」でした。

このとき白井記者は翌二日付「赤旗」に掲載される「第五福竜丸が東京湾のゴミ捨場に沈められる」との記事を準備していたのです。この「赤旗」報道は、第五福竜丸の姿を初めて伝えたスクープでした。白井記者は、この記事の追い駆けとして「日本原水協ビキニデーで保存運動決定」と報道しようとしていたのです。



広く国民運動として

畑中さんは、原水爆禁止運動の「分裂」以後、いわば日本原水協の「顔」でしたが、つね

に平和運動の論理を説き、運動の統一、革新統一に力を注いでいました。

第五福竜丸保存運動についての畑中さんの考えはこうだったのだろうと思います。この運動は統一的な国民運動として取り組む、その手立てをどう組むか、それを考えていたに違いありません。問題は、第五福竜丸船体が保存可能であることの確認、併せて船体確保が必須でした。

日本原水協は三月一日東京都議を同道して現地調査、東京都港湾局に対する廃棄処分中止の要請、債務者からの所有権の委譲、美濃部知事への協力申し入などを行い、一三日「保存運動を国民運動として」展開する方針を決めるのです。

原水爆禁止日本国民会議、草の実会などの市民団体、宗教団体も保存に動き始めます。

畑中さんはもう一つの立場である日朝協会理事長として、社会党・総評の意向も汲み、人脈をたどり、ソフトな一面を持つ広田重道さんの熱意の介在も受け、吉田嘉清原水協事務局長とともに、統一的運動展開の道を探ることになります。

「私としては全面的に賛成で——しかしね、都としてどこまでできるかという問題になりますとね、これは決してそう簡単ではないんで、皆さん方もできるだけ、態勢をつくっていただくませんか」(NHKドキュメンタリー「廃船」69年3月22日放送の中、美濃部都知事談。

六九年四月一日、美濃部亮吉氏を含む八氏の「第五福竜丸保存」の呼びかけが出されました。資格は個人とされましたが、八氏には美濃部都政の後見人の一人中野好夫さん、放射能の環境や海洋の影響に関する研究者三宅泰雄さん、松山義夫さん、宗教者の鈴木正久さん、壬生照順さんらとともに原水協代表委員森滝市郎さん、原水協代表理事畑中政春が名を連ねたのです。

新たな航跡をひいて

七月一日には、呼びかけ人を代表委員とし、九八人の委員からなる、第五福竜丸保存委員会が発足します。委員には各界の著名士、武藤宏一さんも加わり、「禁」「協」関係者も名

を連ねました。

七四年四月発行の保存委員会発行のパンフレットには代表委員各氏のコメントが掲載されています。畑中さんは次のように記しています。

「原水爆禁止、平和運動をあの怒涛のような国民運動に発展させるきっかけとなったこの第五福竜丸を、国民運動として保存することの意義はきわめて大きいといわなければなりません。同時に、この保存運動によってよみがえる『第五福竜丸』は、広範な国民世論を再結集する絶え間ない航跡をひいて、ふたたび広島・長崎・ビキニをくり返させないという国民運動の広がりを、大きく促進するものと確信します」。

畑中さんは第五福竜丸展示館開館を待たず、二回目の脳出血で一九七三年三月六日死去。六五歳でした。(第五福竜丸平和協会顧問)

*

◆写真は八氏呼びかけがでる前の二月一六日、夢の島・第五福竜丸前を焼津に向けて出発した平和行進。中央が畑中さん。撮影・森下一徹。

夏の風景／船をみつめる瞳から

この夏も学校のレポート課題や自由研究で訪れる中高生、親子連れの小学生の姿が館内にたくさん見られました。

ボランティアの会では、レポートの手引きを配布するなど対応し、質問に答えています。陸上や水泳の競技会の合間に訪れる中高生たちも多く、エアコンが不調の館内で汗を流しながらも熱心に見学し、連日にぎやかでした。またたくさんの生協が、第

五福竜丸展示館の見学・活用に取り組みました。

学校の夏休みが始まって間もない七月末には、東京都と神奈川の生協が親子企画で訪れ、子どもたちは工作教室「牛乳パックでつくろう第五福竜丸」、おとなたちは放射能測定器へはかる君Vを使つての学習会です。工作教室はボランティアの会のメンバーが夏前から材料や道具を整えて準備し、工作指導を行いました。放射線の学習会には奥山修平理事（中央大学教員）とボランティアの会世話人の遠藤昌樹さんが講師となりました。



放射線と放射能を学ぶ

また平和の学習会として取り組んだ生協も多く、併せて協会から地元での福竜丸展企画なども提案しました。

これらのとりくみから、生活協同組合パルシステム神奈川の小池美幸さんに、ご寄稿いただきました。

自分だけの福竜丸が完成！



寄稿 パルシステム神奈川 ゆめコープ理事 小池美幸

小池美幸

ました。「第五福竜丸」の生い立ちや被害を受けた乗組員二三名の様子や捕獲した魚はどうだったのか、お話はとてもやさしく、決して押し付けられるものではなく、参加した私たちに問いかける感じのものでした。

被爆した船は第五福竜丸のみと思っておりましたが、日本の漁船は八五六隻も被害を受けていたこと、ビキニ環礁の周りで六七回もの実験が行われ、マーシャル諸島共和国の島民への被害もとても大きかったことが衝撃的でした。

今年五月にNPT再検討会議がNYで開催されたとても重要な年です。

生協代表団として、日本原水爆被害者団体協議会とともに当組合からも二名参加しました。現地では、各種イベント参加や被爆者の証言活動、国連での原爆パネル展などを通して、NY市民とふれあい、真実を伝えることで大きな影響を与えることができました。

また、当組合では神奈川県生活協同組合連合会とともに毎年八月にヒロシマ・ナガ

サキ平和スタディーツアーを行っています。この取組みでは広島、長崎を訪れ、被爆の実相や被爆者の想いに触れます。今年にはヒロシマ平和スタディーツアー七名、ヒロシマ子ども平和ツアー二七名、ナガサキ平和スタディーツアー五名が参加しました。現地で被爆の証言を聞き、実相を知ることと更に、思いがつのり、伝えていきたいという気持ちが生まれてきます。ツアーに参加した子どもたちの顔つきが違ってみえます。

今まだ核を保有する国があり、実験を行おうとする国があることで、核兵器廃絶運動は終結を迎えてはいません。私達の行動は小さなことかもしれませんが、話しを聞き、それを伝えていける場を多く設け、一日でも早く核がなくなることを願って行動していきたいと思えます。



ニューヨーク、 NPTへの平和行動に 参加して

大石又七

国連本部で開かれた核不拡散条約再検討会議（NPT）に向けての平和活動に、原水協からのお誘いを受けました。アメリカに行くことなど考てもいかなかったのですが直接訴える最後のチャンスかもしれないと思いつけて出かけました。よし、お母ちゃんも連れて行こう。五三年間どこにも連れて行けず苦労の掛けっぱなしだったなど…。

核大国アメリカで

一八階建て一七〇〇室のホテル・ペンシルベニアの一五階の部屋にお母ちゃん入り

カーテンを開けると眼前にエンパイヤー・ステートビルがそそり立っていてびっくりしました。

私がアメリカで一番伝えなかったことは、自分が被爆で苦しんでいることだけではありません。貴方も被爆者になつているかもしれないとアメリカ人に伝えなかったのです。アメリカはビキニとエニウエトク環礁で六七回、一〇〇メガトンの核実験を行いました。その威力は広島原爆を毎日一個づつ一八年間落としてつづけた量というから驚きです。水爆は爆発の威力だけではないのです。ガンなど作り出す汚い放射能を大量に撒き散らし内部被爆を引き起こす。

地球上のあちこちで核実験が始まり半減期が何十年、何百年という放射能を撒き散らしました。一九六〇年頃からガン患者が世界中で急増し、日本でも死亡率のトップはガンで年間三五万人と聞きます。私はこの放射能が一因だと思つているのでチラシにも書き、アンケートも取りましたがアメリカ人はビキニ事件

マンハッタンをデモ行進する大石さん（森住卓）



も知りませんでした。それ以上驚いたのは期間中、日本人の誰からもビキニという言葉が出なかったことです。平和運動を作ったビキニ事件はどこに行つてしまったのだろうと思ひました。

五月二日のデモ行進の時には福竜丸の大漁旗を広げて歩く、珍しいので多勢の人がシャッターを押していました。

ヒバクシャの訴え

五月一日、被爆者たちが報告をした国際平和会議は、リバーサイド・チャーチという教会。ヨーロッパの城を思わ

せる高い建物でした。そこは、ベトナム戦争反対を米国民に呼びかけ、良心を呼び起こそうとして暗殺されたマーチン・ルーサー・キング牧師が演説した場所でした。

会議では国連事務総長のバン・ギムンさんが「核兵器のない世界を作る」と力強いスピーチを行ない万雷の拍手を浴びました。

「グローバル・ヒバクシャ」の報告コーナーで、私は世界中の核実験が目に見えない大量の放射能を撒き散らし、大気圏や太平洋を汚染していることが福竜丸の被爆で分かり、世界中が大騒ぎになった。そして爆発的な反対運動が起こり、原水爆禁止世界大会や核絶滅を訴えたラッセル・アインシュタイン宣言につながった。さらには大気圏内の核実験禁止へとつながり平和運動の原点を作ったことなどを伝えました。

特に印象に残ったのは、私の次に、涙を拭いながら訴えていたアメリカ人女性の話です。私は英語が分かりませんので密着取材でそばにいたNHK国際放送の女性に翻訳し

てもらい驚きました。

彼女はネバダ核実験場の風下地域に住むクローディア・ピーターソンさん（55歳）、金髪の美しい方でした。

ネバダでは、五〇年代から大気中で一〇〇回、地下を含めると九二年まで九〇〇回以上の核実験を行っています。政府は、周辺のユタ、ネバダ、アリゾナに住む人々に放射能の危険性について一度も注意しませんでした。

一九九〇年によく放射線被爆者補償法を成立させましたが対象地域や病気は非常に限定的で、ピーターソンさんたちは対象外にされたというのです。彼女たちは、子どもの頃から汚染された野菜や果物を食べ汚染されている湖で泳ぎ、そこで取れる魚を食べてきました。

彼女の父親は、脳からレモンほどの腫瘍を取り出し、六三歳で亡くなり、義父はウラニウム鉱山で働き続け五十一歳で、つづいて三歳になった末娘ベサニーちゃんは癌で三年後に失い、たった一人の姉キャシーさんも悪性黒色腫で（7めん下につづく）

各地でひろがる福竜丸展

……九州で、北海道で

各地で開催された「第五福竜丸展」のいくつかを紹介し
ます。

都内で大規模展示

大規模展では、市民のリクエストで実現した東京・多摩市の「平和展」がパルテノン多摩で開催されました（7月23日～8月1日）。これは写真パネルのほかに現物資料も多数展示するもので、都内での大規模展は初めてです。安田和也事務局長とボランティアの会の中橋章子さんが展示解説を行い、元乗組員の大石又七さんが「聞け！第五福竜丸の声ービキニ水爆実験被災56年」と題して講演しました。

参加者からは「第五福竜丸の乗組員たちが実際に使っていたものなどが展示されており、物が語りかけてくるようだった。」（二〇代）、「核廃絶の原点だと思います。いまこ

そ世界は核のない地球を宣言するチャンスではないかと思えます。平和展での声は小さいけれど皆が叫んだときに大きな声になると思いました。」（七〇代）などの感想が寄せられています。

北海道で第五福竜丸展

北海道鹿追町の神田日勝美術館では「ベン・シヤーン絵本展」と、隣接する鹿追町民ホールで第五福竜丸展が開催されました（8月10日～16日）。船体のタペストリーやマーシャルのパネルなども展示され、安田事務局長が「核兵器のない未来へー第五福竜丸の航海は続く」と題して講演を行いました。

毎年恒例となった兵庫・西宮市「原爆展」、「平和のための埼玉の戦争展」、「平和のための焼津の戦争展」、のほか、三重・鈴鹿市、愛知・稲沢市、



豊田市、神奈川・大和市、藤沢市、北海道・帯広市でも開催されました。静岡では富士市の戦争展でマーシャルの絵本読み聞かせ、湖西市、浜松市の診療所内を巡回するなど多彩にとりくまれました。

長崎原爆の日にも

2009年展示館で開催された、黒田征太郎展「核なき世界へのメッセージ」が長崎市・ブリックホールでも展示されました。同ホールの二階回廊に設けられたギャラリーでの展示で、毎年とりくまれている長崎市江平中学美術部の平和絵画展との併設でひらかれたもの（右写真）。

同校では六月三〇日に、黒



核なき地球へのメッセージー黒田征太郎展 フクリユウマル・イラスト50点、ピカドン・カード、ヒロシマ・ナガサキ議定書絵本など

田さんがワークショップを行い、一〇枚の鳥のイラストを描いたほか、生徒たちと一緒に三〇メートル余の巻紙に絵やメッセージなどを書きましました。

被爆六五年の八月九日「長崎原爆の日」をはさんで二週間、中学生の作品と、黒田さんの描く第五福竜丸、ピカドンのイラストがコラボレーションしました。

展示会オープニングの三日には、安田事務局長が黒田征太郎展を制作したK2（黒田さんと長友啓典さんのデザイン事務所）のスタッフとともに展示の設営をおこない、新聞・ラジオなど現地メディアにもアピールしました。

夫と子ども六人を残して亡くなっています。悲劇は後を絶たなかった、ピーターソンさんの家庭だけのことではないというのです。

しかし彼女の住むユタ州は共和党員が多く、「核兵器は大事なものの、核実験を批判する者は愛国心に欠ける」という見方をされ被爆者は孤立してきたというのです。

（このへんは私がビキニ事件や核兵器の反対を訴えると共産党の回し者のように言われてきたのに似ていた）

今日は泣かないでスピーチを読もうと思ってきましたのですが、涙が止まりません。ごめんなさい、といつてたびたび涙をぬぐい「アメリカ政府は私たちを静かに殺しているのです」と最後に訴えました。

その言葉は日本政府も同じだ、と思いつながら民主主義の本家であるアメリカが自国民に対して、まさかそのようなことを、複雑な思いを胸にしながら、ニューヨーク港に立つ自由の女神を見たとき、女神像も心なしか涙ぐんでいるように映りました。（第五福竜丸元乗組員／協会評議員）

被爆65年 広島へ長崎へ平和の足取り



広島への事前学習で大石又七さんの話を聞き、東京高校生平和ゼミナールのメンバーと同行の教員達。

25周年を迎えるピースサイクルは、7月18日首都圏数カ所のコースを走り第五福竜丸展示館に集結しました。メンバー30人は展示館を見学後、元乗組員大石又七さんの体験を聞き、懇談しました。



7月24日と27日には「核兵器廃絶、戦争なくそう」を合言葉に、反核マラソンが展示館前をスタート。27日には奥山修平理事が激励の挨拶、スターターを務めました（上写真）。今年はフランス、韓国からの参加もあり、東京から広島、長崎への1500kmを13日間で走り抜けるもので、7名のランナーが通しで走りました。参加者は「ランニングを通じて人と人の心が通じあい励ましあうことができるのだと実感しました。それが戦争のない平和な世界をつくる小さいけれど

着実な一歩となるのだと思います」（新日本スポーツ連盟ホームページより）と感想を語っています。

エンジン錆止め薬塗り今年も

8月13日、毎夏恒例となった、埼玉で平和活動をすすめる青年たちに14人よる、エンジン錆止めボランティアが行われました。埼玉県浦和で開催される「平和のための埼玉の戦争展」実行委員会の青年たちを中心に高校生や学生、社会人が参加しました。中心メンバーの一人、中村勇太君の発案によるもので今年で9年目です。中村君は4月の朝日新聞に「エンジンは僕の恋人」と紹介され、記事を読んだ修学旅行生から「あれがそのエンジンですね」と声がかかるなどの反響がありました。

エンジンは錆による腐食がすすみ、表面が剥離、欠損している状態ですが、錆の進行を抑えるために、タンニン酸を塗布しています。

久保山忌句会30年展 第五福竜丸の航海とともに

毎年、久保山愛吉さんの亡くなった9月23日に行われている久保山忌句会が今年で30年を迎えます。句会は協会と新俳句人連盟、原爆忌東京俳句大会実行委員会の共催で行われるもので1981年から続けられています。

30年の節目を記念して、9月23日より色紙・短冊による、高点句作品などの展示を行います。

メディア報道から

◇第五福竜丸乗組員のカルテの写しが、放射線医学総合研究所（千葉市）で保存されていることが時事通信の取材でわかり、7月下旬の産経新聞、日経新聞はじめ、東京、信濃毎日、愛媛ほか地方紙各

紙が報じました。国立東京第一病院（現・国立国際医療センター）に入院していた16人分のカルテで、退院までの病状や検査データなどが記されているものです。

◇南海放送制作のドキュメンタリー『わしも死の海におった』（2004年放送。最新・再編集版57分）がDVDになりました。第五福竜丸以外の被災船を追った番組です。

問合せは、高知県太平洋核実験被災支援センター事務局、山下正寿氏まで。
〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芳奈2779-2 電話・FAX (0880) 66-1763 masatosi.sky@orange.zero.jp

訃報 清水幹雄さん

第五福竜丸平和協会の元監事・清水幹雄さんが8月19日逝去されました。86歳でした。清水さんは1986年4月から2010年4月まで役員を務められました。長年のご貢献に感謝しますとともに、ご冥福をお祈りします。

展示館空調設備工事のお知らせ

展示館空調設備が、昨年の故障以来冬は10度以下、夏には30度を超える日も多く、湿度調整ができなことで船体への影響も懸念されていましたが、新しい機械が取り付けられることになり、今冬より良好なコンディションのもとでの保存がかないます。

機械入れ替えのため、壁や床をはがす大規模な作業となるため9月中旬より11月下旬まで、館内を一部閉鎖しての工事となります。

見学に際しましてはご不便をおかけしますが、ご理解、ご協力をお願いします。